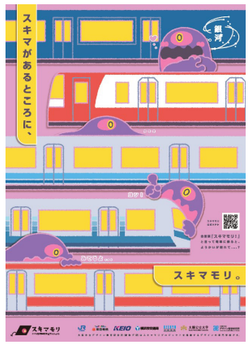
SDGs新聞	JR西日本（西日本旅客鉄道株式会社）
見つけよう！駅や電車の安全のヒミツ	

SDGsラジオを読んでみよう！

電車や新幹線にはよく乗りますか？列車を走らせるときに一番大切なのは、「お客さまの安全」です。
鉄道会社の「JR西日本」では、事故を防ぐために、いろんなことに取り組んでいます。
そのひとつが、線路へ落ちてしまう「転落事故」を防ぐことです。
実は、ホームと電車の間にはすき間があって、小さな子どもは、足をふみはずしたり、荷物を落としてしまったりすることがあるんです。
そこでJR西日本では、「スキマモリ」というキャラクターを使い、その危険をわかりやすく伝えています。
他にも、電車のホームにロープやさくをつけたり、万が一、線路に人が落ちてしまったときには
運転士さんにすぐに知らせるシステムをつくったりと、いろんな工夫をしています。
かけこみ乗車をしない、足もとをよく見る。そんな行動が、安全につながっていきます。
みなさんも、列車に乗るときには気をつけてみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



毎日、たくさんの人が電車や新幹線を利用します。そんな列車を走らせるときに一番大切なのが「安全」です。鉄道の会社「JR西日本」では、お客さまの安全を守り、事故を防ぐためにさまざまな取り組みをしています。そのひとつが、線路への転落事故を防ぐことです。駅のホームと電車の間にはすき間があり、そこに荷物を落としたり、小さな子どもはすっぽりと落ちてしまったりすることもあります。そこでJR西日本では、「スキマモリ」というキャラクターを使って、子どもたちや家族にその危険をわかりやすく伝えています。「こわいけどおもしろい」キャラクターを通して、子どもたちに「ホームと列車のすき間の危険」について興味を持ってもらい、考えてもらえるよう工夫されています。

画像参照：JR西日本の「スキマモリ」を使ったポスター（スキマモリ公式HPより）
スキマモリ｜こども隙間転落防止プロジェクト





（写真は北木駅2番のりば）

JR西日本では他にも、転落事故を防ぐためにさまざまな取り組みを行っています。たとえば、ホームから人が落ちないように、ホームにロープやさくをつけています。また、万が一線路に落ちてしまったときに、運転士さんや駅員さんにすぐに知らせる「ホーム安全スクリーン」というシステムも開発しました。このようなさまざまな工夫によって、安全が守られ、たくさんの人が毎日安心して列車を利用することができます。かけこみ乗車をしない、足もとをよく見る、黄色い線の内側を歩くなど、私たちにできる工夫もあります。鉄道の安全を守るためには、一人ひとりの行動も大切です。

画像参照：ホームさくの写真と「ホーム安全スクリーン」の概要

キーワード

スキマモリ

JR西日本を中心に、いろんな鉄道会社などが協力して進めている「こども隙間転落防止プロジェクト」のキャラクターです。

ホームさく・ホームドア

ホームから線路への転落を防ぐために設置されているさくやドアのこと。ロープが上下に動くタイプなど、駅や発着する列車に合わせたさまざまな種類があります。

ホーム安全スクリーン

ホームにあるセンサーが線路への転落を検知し、運転士さんや駅員さんへすぐに知らせるシステムのことです。

対象ゴール



みなさんにできること！

列車に乗るときは、足もとやすき間に気をつけて乗ってみましょう。

おさらい

- 「お客さまの安全を守ること」が鉄道を走らせるときには大切。
- JR西日本では、お客さまの安全を守るためにさまざまな安全対策を行っている。
- JR西日本は、「スキマモリ」というキャラクターで危険をわかりやすく伝えている。

メモ

SDGsラジオ